

『野菜総合供給産地のブランド化を目指して』

< ねぎの高品質・省力栽培の取り組み >

【産地名 上伊那（長野県）】

産地データ（H15年）



対象品目名	ねぎ
産地の名称	上伊那
作付面積	15.0 ha
主要作付品種	吉蔵、秀逸
作付農家戸数	155 戸
生産量	471 t / 年間
出荷(販売)量	465 t / 年間
販売額	132 百万円 / 年間
出荷(販売)先	市場 関東・中部・関西ブロック

収穫を直前に向えた圃場（南箕輪村）

1. 産地の概要と特徴及び課題

当地区は県南部に位置し、東は南アルプス、西は中央アルプスに囲まれ、諏訪湖を水源とする天竜川が北から南に貫流し、これを挟んで南北に長い段丘を形成しており、農地は標高400m～800mに分布しています。

JR飯田線、国道153号線が天竜川西側を縦貫しているのに加え、中央自動車道によって中京、京阪神地域をはじめ主要都市への農産物の輸送は短時間で可能となっており、都市近郊的産地として発展しています。

上伊那地区の農家は、転作田を利用して米に変わる所得維持の品目として、白ねぎ・ブロッコリー・アスパラガス・スイートコーンなどの栽培を行っています。白ねぎの栽培は、古くから松本1本ねぎの栽培がされており越冬野菜での地場消費では長芋・ゴボウに次ぐ品目となっています。特に標高差による出荷時期の拡大・夏場の昼夜における寒暖の差による光沢・甘さが特徴で、生産拡大されています。

白ねぎ栽培は、新品種の導入により品質向上がされましたが、皮剥き調製荷造り作業に労力の大半が占めるため面積拡大が困難であるため機械化を積極的に推進しており労働時間の削減はされています。又、機械の能力による共同作業化も合わせて推進していますが、高齢化による栽培面積の減少・作業時間の格差、出荷時期の競合により小規模な共同作業化も課題です。

販売面では、契約取引によるコンテナ流通を推進していますが、ねぎの場合コンテナでの曲がり問題で品質面での低下があり契約による流通販売の推進が今後検討課題です。

対象品目の作型（生育ステージ）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
作業	定植期				収穫（最盛）期				播種期			

2. 産地改革計画の概要

策定対象品目名	ねぎ	該町 当村 市名	伊那市・駒ヶ根市・辰野町・ 箕輪町・高遠町・飯島町・宮田村 ・南箕輪村・中川村・長谷村
策定年月	平成14年7月		
策定主体名	上伊那農業協同組合		

(1) 計画の全体概要(要旨)

上伊那地区の白ねぎ生産者は、輸入農産物に対抗した低コスト化・契約取引推進タイプを戦略とした産地改革に取り組んでいる。

低コスト化タイプとして生産コストの削減をkg当たり219円を195円までと、また機械化作業体系導入による栽培面積を0から12haとし労働時間を10a当たり350hrから300hrまで削減目標で実施している。

契約取引推進タイプでは、予約相対取引による定量・定質・定価格による販売と、コンテナによる流通を現状数量0から30t・面積で0から1haと目標を定め実施している。

戦略目標を推進する方策として作業機械の効率的な作業推進のため、機械の使用説明・圃場での手順・包装荷造り作業による規格統一指導・先進地視察・品種試験・作期の拡大など実施している。また、契約取引では各規格による、予約相対取引の実施・直売部会への栽培指導・出荷指導・AC関係への直接販売・地消地産等の推進を行っている。

今後上伊那の白ねぎが、産地改革を推進し水田転作ではなく水田本作となる栽培をより改善し、輸入農産物に対抗出来る足腰の強い産地化を図る。

(2) 具体的な目標

低コスト化タイプ	生産コスト	kg当たり219円を195円に削減	
		機械化作業体系導入による栽培面積を0から12ha増反 労働時間を10a当たり350hrから300hrまで削減	
契約取引タイプ	数量	0	30t
	面積	0	1ha

3. 産地改革計画の実行状況とその成果

・生産コスト11%削減

現状219円/kg、平成15年度 205円/kg、目標 195円/kgで削減率は平成15年度に6%となり機械化の導入により確実に改善されています。

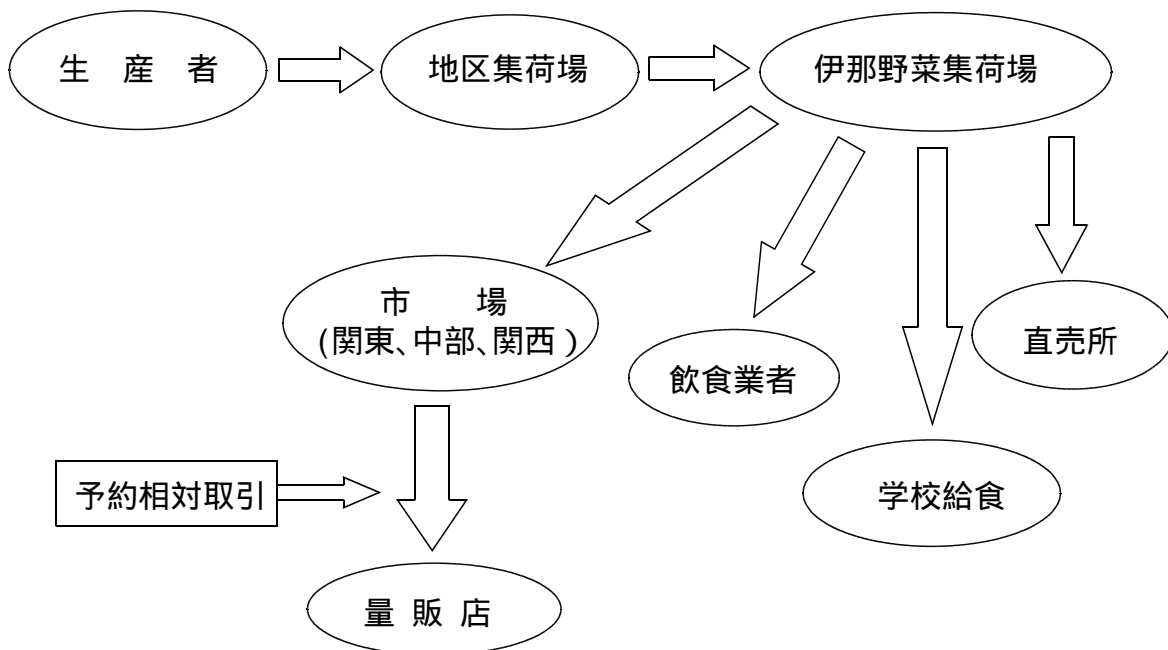
また、計画達成に向けて推進会議・指導会・規模拡大・作型の拡大・F1品種の導入・担い手の育成も2組織で3ha取り組みがされ、上伊那全域で栽培の取り組みがされています。

・契約取引の拡大

現状契約取引0に対して部会組織活動により安全安心栽培の拡大により市場流通での予約相対取引・学校給食の利用・直売での販売など出荷形態の検討により確実に特殊流通での販売先が増加しています。またその影響で上伊那の総合供給産地である野菜全体のコンテナ容器での契約取引が、スイートコーン・きゅうり・トマト・長芋を中心に販売拡大されています。

構造改革後の生産・出荷・販売システム概念図

<ねぎ生産・出荷・販売システム概念図（フローチャート図）>



伊那野菜集荷場へ一元集荷し市場出荷と地産地消への総合供給体制の取組み。

産地改革に係る補助事業等の実施状況（平成14年度以降）

国庫補助事業

年度	事業名	事業主体名	事業内容	事業費	国庫補助金
15	野菜構造改革促進 特別対策事業	上伊那農業 協同組合	いちご・ブロッコリー ・トマト・きゅうり・ ねぎ・アスパラガス・ 資材・機械一式	(百万円) 74.1	(百万円) 35.3

関連事業（取組等）

年度	事業（取組）名	事業主体名	事業（取組）内容	事業費	うち補助金

4. 今後の課題とその取組方向

今回の事業の中で導入された機械が皮剥機、結束機ともに個人使用の小型タイプであり低コスト化に対し、一定の成果を見出すことはできたがさらなる産地化を目指す中で現状の導入機種では処理能力に限界がある。今後の面積増反に向け方策として、大型共同利用型前処理施設の導入が不可欠である。

【特記事項】

産地改革・取組フォト



収穫作業風景



導入皮剥機による皮剥き作業



箱詰め作業



伊那野菜選果場で予冷中のねぎ



< 県・問い合わせ先 >

県 事務所(センター) 部 課

担当係名(氏名)...

住所:

TEL:

< 農協・問い合わせ先 >

上伊那農協 営農部(支所) 野菜課

担当係名(氏名) ... 保科 峰人

住所: 長野県伊那市大字伊那部 4 2 9 1

TEL: 0 2 6 5 - 7 2 - 8 8 3 3